

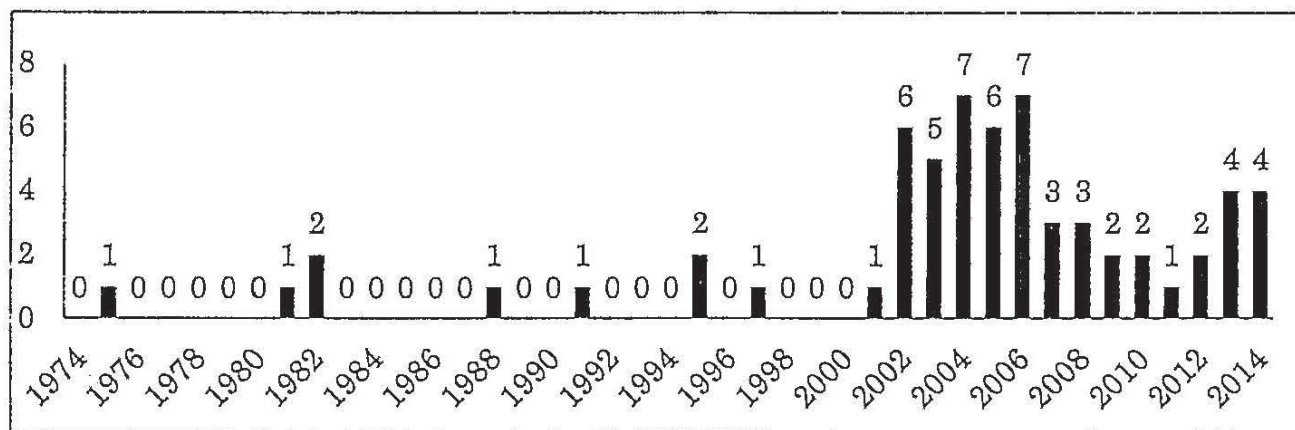
## 書籍調査から見る「美しい日本語」

小林 咲子

### 1. 研究の目的

「美しい日本語」とは、実態のつかめない概念といえるのにもかかわらず、大多数の支持を得ている不思議な言葉である<sup>1</sup>。そんな世相を示唆する資料として、1974年から2014年にかけて出版された「美しい日本語」を书名に含む書籍の出版数<sup>2</sup>の推移を示すグラフを提示したい。

【図1：「美しい日本語」を书名に含む書籍の出版数】



出版数が大幅に増加している2002年は、新語・流行語大賞<sup>3</sup>で「声に出して読みたい日本語」がトップ10入りした年であり、同名の書籍<sup>4</sup>が火付け役となって2000年代における日本語への関心の高まり、いわゆる日本語ブームといわれる時期にさしかかる<sup>5</sup>。この現象と関連して「美しい日本語」への興味・関心が、2000年代になって高まっていることがわかる。これほど多くの本に書き表されている「美しい日本語」とはどんな言葉なのだろうか、どんな特徴があるのだろうか、そして、それは我々が携わる国語における言葉とはどういう関係にあるのだろうか、という疑問が本論文のはじまりである。従って、本研究は「美しい日本語」を構成する要素を整理し、具体的な内容に関する調査や学習指導要領との比較を通して「美

しい日本語」の特徴・傾向を明らかにすることを目的とした。

## 2. 「美しい日本語」の構成要素

### 2. 1 調査方法

書名に「美しい日本語」を含む書籍で扱われている項目・内容を世間一般で「美しい日本語」と呼ばれる言葉と捉え、それらを収集し、分析の対象とする。また、「美しい日本語」を書き表す過程において、反映されると考えられる作者の言語意識にも着目し、「美しい日本語」と判断する信念・規範意識や語感・志向など、共通する言語意識についても考察していく。

### 2. 2 結果と考察

調査対象とした本 12 冊において、扱われている項目を調査した。多くの本で共通して扱われている項目があれば、「美しい日本語」を構成する要素として重要度が高いといえる。なお、分類の仕方は、一番細かく分類してあった『一生使える美しい日本語と敬語』の目次・見出しを基本とし、あてはまらないものを新たに追加していくこととした。以下、【表 1】にその結果を示す。

【表 1: 「美しい日本語」に関する本で扱われている項目】

	該当冊数(全 12 冊)
敬語	10
カタカナ語(「カタカナ」言葉, 和製英語など)	9
四季・自然に関する言葉	9
四字熟語・ことわざ・慣用句	8
文法	7
若者言葉・流行語	7
挨拶の言葉	7
漢字の読み書き	7
文学作品の引用(近代文学, 古典文学, 詩歌など)	5
ビジネスメール・文書の書き方	5

冠婚葬祭日本文化に関する言葉(着物, 和室, 歌舞伎等に関する言葉)	4
冠婚葬祭	4
方言	4
ものの数え方	4
手紙・封筒の書き方	4
話し方・発声	3
色と文様の名前	3
女性言葉	2
文字の書き方	2
擬態語・オノマトペ	2
親族の関係性を表す言葉	1
レトリック	1
日本の旧国名	1
仏教語	1

### 3. 「美しい日本語」に関する本の特徴・傾向

#### 3. 1 調査の観点

「美しい日本語」を構成する重要な要素としてあげられる8つの項目それぞれの具体的な内容と、作者の言語意識を探るため、次の観点から調査・考察を行った。

①どんな内容が、どう扱われているのか(内容・評価)

②なぜ扱われているのか(理由)

#### 3. 2 敬語

##### ①内容・評価

敬語に関しては、尊敬語、謙譲語、丁重語、丁寧語、美化語について文法的に説明する記述や、一問一答・選択などの問題形式で述べられているもの、誤用を指摘し注意を促す記述などが見られた。とりわけ、誤用を指

摘する記述が多く、「尊敬語と謙譲語の混同・使い分け」「二重敬語・過剰敬語」「ソトに対してウチを高めてはならないというきまり」に関する誤用例などが挙げられていた。以下に例を引用する。なお、調査対象からの引用に関しては、出典となる書籍名を簡易的に付記し、詳細を末項の例文出典一覧にまとめて記述することとする。

・尊敬語と謙譲語の使い分け（6）

「参る」「申す」などの特殊な形に変化する動詞の謙譲語を尊敬の意で（4）

（1）\*お客様が参りました

（1'）お客様がいらっしゃいました（一生使える）

「お～する」と「お～になる」の混同・混用（4）

（2）\*こちらにお名前をお書きしてください

（2'）こちらにお書きになってください（一生使える）

・二重敬語・過剰敬語（6）

2つ以上の尊敬表現を使っている（5）

（3）\*あちらの化粧室をご利用になられてください

（3'）あちらの化粧室をご利用になってください

（3''）あちらの化粧室をご利用ください（一生使える）

「させていただく」の過剰使用（3）

（4）\*ご説明させていただきます

（4'）説明いたします

（4''）ご説明いたします（身につく）

「お」の付けすぎ（5）

「おビール」「おジュース」など、美化語の過剰使用

・ソトに対してウチを高めてはならないというきまり（5）

他社を訪問し上司への伝言を頼まれたとき

（5）\*そのように〇〇に申し上げます

（5'）そのように〇〇に申し伝えます（書き方・話し方）

・特殊な形に変化する動詞の一覧（尊敬語・謙譲語）（4）



・分類表・文法的な説明（3分類・5分類）（4）

・目上の人に対する返答としては不適切（3）

（6）？はい，わかりました

（6'）はい，承知しました

（6''）はい，かしこまりました

（書き方・話し方）

菊池(1994)<sup>6</sup>では、敬語の仕組みを<語形>(かたち)、<機能>(はたらき)、<適用(運用)>(あてはめ)の3つの観点から捉えており、その観点から上記の誤用例を見てみると、「二重敬語・過剰敬語」に関する問題は、<機能>を正しく理解していなための誤り、「ソトに対してウチを高めてはならないというきまり」「目上の人への返答」に関する問題は<適用(運用)>の仕方が悪いための誤り、「尊敬語と謙譲語の使い分け」はその両方の可能性が考えられる。「敬語」の内容として、基本ともいえる<語形>よりも、<機能>や<適用(運用)>に関する指摘が多いことが分かる。また、設定されている場面が「他社を訪問した際」、「取引先からの電話」、「来客を案内する時」とされていることから、社会人または社会に出ようとしている段階の学生が読者層として想定されていると推察できる。

## ②理由

「敬語」の項目では、<機能>を正しく理解して使うこと、相手や場面に応じて使い分ける能力、つまり<適用(運用)>の仕方を身につけることを推奨している。その理由として、「品格・評価の向上」、「聞き手に好印象を与える」、「社会人としての常識」ということが半数以上の本で挙げられている。その他の理由をまとめ、代表的な記述を以下に引用する。

・正しい使用で品位・評価の向上，誤用で品位・評価の下落（6）

・聞き手に好感を与える，誤用は悪い印象（耳障り，違和感，不自然）（5）

・人間関係の円滑化（4）

・社会人としての常識，必要な能力（3）

・その他（思いやりを伝える，秩序を保つ，誤用は相手に失礼になる）

（7）敬語の使い方を間違えると，相手に失礼になるばかりではなく，

自分の評価を下げてしまうことにも。間違えやすいポイントを知り、適切で美しい敬語を使えるようにしましょう。（書き方・話し方）

敬語を社会人としての常識・身につけておくべき能力と位置づけ、品格・人柄を評価する指標の一つとみなしていることがうかがえる。

### 3. 2 全体の考察

「敬語」「カタカナ語」「四季・自然に関する言葉」「四字熟語・ことわざ・慣用句」「文法」「若者言葉・流行語」「挨拶の言葉」「漢字の読み書き」に関する調査結果・考察を概観し、「美しい日本語」に関する本の特徴・傾向を考察していく。まず、「美しい日本語」を構成する重要な要素である8つの項目の扱われ方を整理すると、正しく使用することが推奨されているものと使用を否定されているものが混在していることが分かる。【図2】

【図2：推奨されている項目と否定されている項目】

<p>&lt;推奨されている項目&gt;</p> <p>「敬語」「四季・自然に関する言葉」 「四字熟語・ことわざ・慣用句」 「文法」「挨拶の言葉」「漢字の読み書き」</p>	<p>&lt;否定されている項目&gt;</p> <p>「カタカナ語」 「若者言葉・流行語」</p>
--	--

これら2つを比べてみると、昔からある言葉、伝統的な文化に関する言葉が「美しい日本語」として推奨されており、「カタカナ語」「若者言葉・流行語」などの新しい言い方・言葉が否定されていると考えられる。「四字熟語・ことわざ・慣用句」の項目で従来の意味以外の語意を誤用とし、使用を否定していることも踏まえると、言葉の変化に否定的で、言葉を規範的に捉えているという傾向がうかがえる。また、「四季・自然に関する言葉」を扱う理由として「日本人の伝統的な心情を感じる」があげられていること、「美しい日本語」を構成する項目の中に「文学作品の引用」や「日本の文化に関する言葉」があることから、日本と日本文化に対して強い愛着をもち、伝統的な言語文化を尊重していこうとする意識が強いことが分かる。

さらに、本の中で扱っている場面・設定されている場面に着目すると、一番多くの本で扱われていた「敬語」は、主として公的な場で話される言



葉であり、「若者言葉・流行語」は公の場、改まった場では使うべきではない言葉として否定されていることから、「美しい日本語」とは、公の場・改まった場という限られた場面において話される言葉に焦点があてられており、日常の会話や特定の地域で話される日本語は含まれていないということが推察できる。

最後に、それぞれの項目を取り上げる理由としてあげられていた「品位」について考察すると「敬語」、「四字熟語・ことわざ・慣用句」、「文法」、「若者言葉・流行語」、「カタカナ語」の5つの項目において、品位の向上・下落を評価の理由としてあげている。これは、言葉には話し手の品位や人柄が表れるという前提のもと、自らの品位を保持・向上させるための手段としての言葉の働きを示唆しているといえる。

### 3. 学指導要領との比較

前述の「美しい日本語」に関する本の傾向が学校教育における日本語ではどうなっているのか、「言葉の変化」、「伝統的な言語文化」、「場面・対象」、「品位」の4点について『平成20年度版学習指導要領国語編』等の記述をまとめ、比較を行う。

#### 3. 1 言葉の変化に対する態度に関して

言葉の変化については、小学校・中学校ともに「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」にあり、それぞれ次のように述べられている<sup>7</sup>。

- ・小学校 第5学年及び第6学年

- (イ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。

- ・中学校 第3学年

- (ア) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。

さらに、解説<sup>8</sup>では次のような記述も見られる。

言葉は、時間の経過により語形や語意などが変化していくという側面をもっている。ここでは、言葉のもつこのような性質に気付かせることで、自分たちが使っている言葉に対する興味・関心を喚起するとともに、理解や認識を深めるようにすることが大切である。（下線筆者）

学習指導要領では、言葉の変化を言葉の性質・特徴とし、生徒の興味・関心を引く契機としている。他にも、世代による言葉の違いや一人の間でも年代によって言葉が変化する場合もあること、流行語の発生という現象などに着目して指導し、「言葉というものが生活と密接に関連していることを実感させる」という解説<sup>9</sup>も見られた。以上のことから、学習指導要領では言葉の変化を肯定的に捉えていることがうかがえる。これは、言葉の変化に否定的な「美しい日本語」に関する本の傾向とは対照的である。

#### 4. 本研究の成果と今後の課題

##### 4. 1 本研究の成果

「美しい日本語」に関する本では、扱う言葉が公的な場で使われる言葉に限定されているということ、伝統的な言語文化を尊重し、言葉の変化に否定的であるということ、言葉を自らの品位を保持・向上させるための手段として捉えているという傾向があり、国語科が扱う言葉に比べて、地域、場面・対象、表現の効果が限定されているという特徴を見出すに至った。

##### 4. 2 今後の課題

今後の課題は以下の3つである。

- ①調査対象の範囲を広げること
- ②「正しい日本語」との関係性を考察
- ③教科書、指導書等との比較

- ① 本研究では、書名に「美しい日本語」を含む書籍のうち、12冊を調査対象としたが、より正確な調査のためにはさらに多くの本を調査対象として研究する必要があるだろう。



- ② 「美しい日本語」に関する本の中に「正しい日本語」という記述が多く見られること、「正しい日本語」に関する書籍も多く出版されていることなどから、同様の調査を行い、その結果を比較して関係性を考察することで「美しい日本語」の新しい特徴が見いだせる可能性がある。
- ③ 本研究では、国語科が扱う国語との比較を行う際、学習指導要領をもとに考察を行ったが、教科書や指導書に調査対象の範囲を広げることで、項目の具体的な扱われ方、提示のされ方についても比較を進めることができ、より深みのある研究になるだろう。

#### 【注】

- (1) 文化庁では、国語施策の参考とするため、平成7年度から毎年「国語に関する世論調査」を実施しており、平成20年度調査<問2>において『美しい日本語』というものがあると思うか、思わないか」という問いに対し、87,7%の人が「あると思う」と答えている。
- (2) 国立国会図書館「NOL - OPAC」において、「資料種別」で「図書」を選択し、「タイトル」に「美しい日本語」を含むものとして検索した結果を出版点数とみなした。
- (3) 「現代用語の基礎知識選 ユーキャン新語・流行語大賞」のこと。  
「この賞は、1年の間に発生したさまざまなことばのなかで、軽妙に世相を衝いた表現とニュアンスをもって、広く大衆の目・口・耳をにぎわせた新語・流行語を選ぶとともに、その「ことば」に深くかかわった人物・団体を毎年顕彰するもの。」(ホームページより引用)
- (4) 齋藤孝(2001)『声に出して読みたい日本語』草思社
- (5) 小森陽一(2003)「日本語ブームとナショナルリズム」『教育』第53巻7号、国土社
- (6) 菊池康人(1994)『敬語』角川書店 pp.88 - 90
- (7) 文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社 pp.114-115
- (8) 同上 p.76
- (9) 同上 p.77

#### 【調査対象一覧】

- ・山下景子(2014)『大切な人に使いたい美しい日本語』大和書房
- ・学研 mook(2014)『美しい日本語と正しい敬語』学研パブリッシング
- ・市川寛子(2013)『美しい日本語と気づばりのすすめ』株式会社サンリオ
- ・関根健一(2013)『一生使える美しい日本語と敬語』PHP 研究所
- ・日経おとなの OFF 特別編集(2012)『美しい日本語と正しい敬語が身につく本』日経 BP 社
- ・坂東眞理子(2009)『美しい日本語のすすめ』株式会社小学館
- ・山岸弘子(2007)『美しい日本語の書き方・話し方』成美堂出版
- ・丹生谷真美(2005)『あなたが花になる美しい日本語』主婦と生活社
- ・柴田武(2002)『覚えておきたい美しい日本語』角川書店
- ・石井澄雄(1988)『美しい日本語で話しましょう』桜楓社
- ・木村治美, 大石初太郎, 青木雨彦, 別宮貞徳, 稲垣吉彦, 向井敏(1982)『ことばのゼミナール 美しい日本語のすすめ』講談社ゼミナール選書

- 
- ・外山滋比古，稲垣吉彦，青木雨彦，芳賀綏，樺島忠夫(1982)  
『美しい日本語－日常語はどうあるべきか－』小学館

【参考文献】

文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社  
文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社

(こぼやし さきこ 諏訪郡富士見町富士見中学校)